



# 映画で学ぶ 環境問題

ハプニング  
(The Happening)



公開：2008年6月  
配給：20世紀フォックス  
製作・脚本・監督：M・ナイト・シャマラン  
出演：マーク・ウォールバーグ  
ズーイー・デシャネル  
上映時間：90分  
ロケ地：ニューヨークのセントラルパーク、他

ここ数年来、世界各国で「ミツバチの集団失踪」という衝撃的なニュースが農業界をかけめぐっています。日本も決して例外ではなく、すでに「世界的危機により女王蜂の入手が困難」といった状況や「野菜や果実など、各種植物の受粉の危機」という事態をひきおこしています。現在、アメリカを中心としてこの問題を「蜂群崩壊症候群」(CD)と名付け、対応するべく専門家による調査が始まっていますが、原因も対策もまだまだ見えてこない状況です。なんといつても、世界各国で大量の

ミツバチがいなくなつたにも関わらず、その死骸が発見されています。というのがナゾの中のナゾです。そしてこのナゾをさらに深めているのが、かのAIN・シユタインによる恐るべき予言なのですが、それは「もしハチが地球上からいなくなると、人間は4年生きられない。ハチがいなくなると、受粉ができなくなり、そして植物がいなくなり、そして人がいなくなるからだ。」という、生態系の崩壊に対するものです。このAIN・シユタインの予言を頭に取り上げたパンツ映画が本

ソウルへ遊びに行つてきました！岡山空港から飛行機でわずか1時間余り、もう私は「外国人」です。同じ飛行機に乗っていた日本人（たぶん岡山県人）が、入国審査待ちの列で「あれ、ここ外国人ってなってるわあ！」と他の列に並び直そうとしていたので思わず「外国人でしょ」と突っ込みました。空港や観光地では時折英語、日本語を見掛けるものの街中はほとんどがハングル文字：予想通り言葉もわからず、右往左往しましたが、ソウルタワー、南大門市場などなど観光、ショッピングを堪能。日常生活から離れ、異文化に触れる刺激的な三日間でした。

大日化成でも二年前からチームマイナス6%に参加したことをきっかけにクリービズ、ウォームビーズに取り組んだりゴーヤでグリーンカーテンを作るなど、少しづつですがエコに対する意識が高まっています。私も最近はマイバッグを持参したりエコドライブを心掛けたりとエコな生活をしていますが、その結果、節約にもつながり一石二鳥です。



作「ハプニング」です。タイトルの「ハプニング」とは、「突然的なできごと」という意味で、この映画のストーリーは、ミツバチがアメリカからいなくなつたのを皮切りに、ある日突然、緑豊かなニューヨークの公園・セントラルパークで人々が異常行動を取り始めたかと思ふと、申し合わせたかのように続々はパーク内だけではなくニューヨークに連れ、アメリカ中がパニックになります。異常行動の原因は、環境破壊による植物の反乱、といったところのようです。

主役の教師役は、よくあるヒーロー的な俳優ではなく、中堅のマーク・ウォールバーグが演じ、脇役陣もすぐそばにいそうな庶民的な人物ばかり固めて、日常感をあふれさせています。脚本、製作、監督を「シックスセンス」で一躍有名になつたM・ナイト・シャマランが担当しているせいでも、日常感の中に、得意のおどろおどろしさが良く出ています。

この作品の公開は2008年6月。製作に着手したのは2007年

もしくはそれ以前ということですか

ら、CCDが報告されています。

ディアが浮かんだのでしょうか。これだけの素早さで映画の中でも重要な「異常の原因」を「テロ」ではなく、

環境問題（生態系の崩壊や異常にによるもの）としてストーリーを考え出せる点で、アメリカ映画界人の先見性を見る思いで、

ただ、着眼点そのものは良くなつて、人々の異常行動を「残酷な自殺シーン」という見せ方で演出しているせいで、アメリカでは「R指定」・日本でも「PG12指定」という「未成年者の視聴は禁止、もしくは保護者の同伴が望ましい」の指定をおこなっていますので、子どもがいるご家庭での視聴には慎重を期して頂いた方がよいかかもしれません。

また、植物の反乱に対する問題解決のために、我々人類が何かをしましますよう、といった提案になつてしまっていますので、観客の評価の中には失望感が少なからずあるようです。

年者の視聴は禁止、もしくは保

護者との伴走が望ましい」の指

定を演出しているので、子ど

もがいるご家庭での視聴には慎

重を期して頂いた方がよいかも

りません。

## ユニーケ バイオプラスチック

環境を考える上で避けて通れないのが、ゴミの問題です。

特に燃やすと有害な物質を発生させるプラスチックは、燃やすず放置しても分解しない特徴があります。しかし、遠く離れた極地の野生動物でさえも、流れ着いたゴミのプラスチックを食べるトラブルが年々増加しています。

そこで開発されたのがバイオプラスチックです。その名通り、生物資源であるバイオマスが原料のため、その多くが生分解性プラスチックとしての性質を持ち、放置した場合でも微生物によつて水と二酸化炭素に分解されます。

さらに、その二酸化炭素を元に植物が光合成によつてデンプンを作り出し、デンプンからまた生分解性プラス

チックの原料を作り出すことができるという循環性にすぐれたバイオプラスチックの原料は、現在のところトウモロコシやサトウキビ、米などが知られています。

良いことづくめのように見えるバイオプラスチック。しかし、まだ難点は多く、特に導入コストが高いことから一般的な普及はまだなかなか進みにくいようですが、まだ、将来的には非常に有望な分野と思われています。

日頃は営業活動やお電話で応対させていただいているスタッフの日常をお伝えいたします。

### スタッフ紹介

日々新聞では情報として市販のエコグッズをご紹介しておりますが、推奨品としてお薦めする製品ではありません。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願ひいたします。



技術部 村上 裕美

**DAINICHI CHEMICAL Co.,LTD.**

- 本社 〒571-0030 大阪府門真市末広町8-13 TEL: 06-6909-6755(代) / FAX: 06-6909-6702
- 東京営業所 〒105-0013 東京都港区浜松町1-2-11 TEL: 03-3436-3801(代) / FAX: 03-3436-3803

